

令和5年度大雪山国立公園連絡協議会総会議事録

■日 時：令和5年5月12日（金）14：00～16：00

■会 場：上川町役場大会議室

■出席者：出席者名簿のとおり

■概 要

1. 開会

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・ 大雪山国立公園連絡協議会の運営へのご協力や支援をいただき御礼申し上げます。
- ・ 本協議会は、2020年6月の総会の場で、民間事業者や専門家等を含めより多様な主体が協働する総合型協議会へと改組され、今年で3年を迎えるところ。
- ・ その間、「大雪山国立公園ビジョン」の実現を目指し、本協議会のもと設置された「登山道維持管理部会」や「各作業部会」の場を通じて、主に山岳エリアの抱える様々な課題に対し、その解決に向けた議論が進められてきた。
- ・ その中でも、白雲岳協力金の取組については2年目を無事に終了し、その協力金を活用した保全活動にも着手されたところ。多くの登山者に賛同いただき、取組が順調に進んでいることは大変喜ばしいことかと思う。
- ・ 本取組を、今後いかに大雪山全体へと展開していけるか、より多くの賛同者を獲得し大雪山らしい協働の仕組みとしていかに定着させていけるかが、重要になる。
- ・ 本取組は、協働型管理を示す代表的な事例といえるが、それ以外にも多く構成員による様々な取組が積極的に進められている。そのような取組の全体に対して、連携・協力による相乗効果を発揮できるよう、本協議会としても引き続き支援していきたいと考える。
- ・ 本日は、今後の事業計画案等に審議をいただくことになる。忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. 議事

(1) 審議事項

- 1) 令和4年度事業報告について
- 2) 令和4年度会計報告について
- 3) 令和4年度会計監査について

以上、1) 及び2) について、事務局より資料1-1、1-2、に基づき説明、3) について監査鹿追町長の代理の商工観光課より資料1-3に基づき監査報告が行われた。

→各事項について、質疑なしで承認。

-4) 令和4年度事業計画について

-5) 令和4年度事業予算について

以上、4) 及び 5) について、事務局より資料 1-4、1-5 に基づき説明。

→以下質疑の後、承認。

■北海道大学大学院 渡邊 氏

- ・ 事業計画の「3. ホームページ等による情報発信」について、スマホプラットフォームができたことは大変良いことだと思うし、中身も良いと思う。ただ、スマホサイトを拝見したところ、トップページに「大雪山国立公園連絡協議会」と出てくる。一般の方としては最初に見る文字が、この表現だと自分には関係ないと思って、中身を見ない可能性もあるので、より一般の方が利用したいと思うような文字・表現がトップに来るように改良していただきたいと思う。

■事務局

- ・ 事務局としても、より多くの方にホームページを見ていただきたく、そのための工夫が必要と考えている。今年度予算の中で改良していきたい。またご意見いただければと思う。

(2) 報告事項

-1) 表大雪地域／東大雪地域登山道維持管理部会の開催結果について

事務局より資料 2-1 に基づき報告後、表大雪地域/東大雪地域登山道部会から出席している団体より、部会に出席した感想やそれぞれの活動状況など、一言ずつコメントいただいた。

(名簿順)

■層雲峡ビジターセンター 片山氏

- ・ 登山道整備事業に関する普及啓発はビジターセンターでも行っているが、一般の方々への啓発はなかなか難しいと感じているところ。
- ・ ニセイカウシュッペ山の通行止めの話もあるが、現在整備を検討している登山道や林道についても、本当に必要な道なのか本当に必要な整備なのか、という議論も含めて話を進めると良いかと思う。

■TREE LIFE 荒田氏

- ・ 昨年度会議には参加できなかったところだが、実際にガイド業をして感じたことをお話ししたいと思う。特に感じる場所は、ガイドのない登山者への啓蒙活動が最も難しいということ。例えばツアーの参加者であれば、ガイドから、利用の仕方

や(ダメな行動については) どうしてやってはダメなのかという理由まで細かく説明することができるが、一般の方へは「なぜダメなのか」といった深い説明は難しく、一般の方が理解しづらい部分があると感じている。

■合同会社北海道山岳整備/大雪山・山守隊 岡崎氏

- ・ 白雲岳協力金の話が順調に進んでいるとの話がある。これについてお話ししたい。実際、協力金で直せる範囲は10キロメートル程度である。例えば4千人から1,000円いただいて400万円確保できたとしても、40年以上かかる試算である。この過去の環境省試算結果や現状の崩落の状況を踏まえると、現在の協力金額である1,000円だと全く足りないのが現状である。8割の方が2年連続で協力してくれているという実績については、この取組が認められている証拠だとは思いますが、自分としては、この協力金の取組はキッカケにしか過ぎないと考えている。利用から得るお金をより増やさないと、保全是広がっていかないと、今後も協力金が1,000円で足りるという認識で事業展開された場合には、いよいよ大雪山全体の保全資金は足りなくなる(保全活動ができなくなる)。
- ・ 自分としては、「保全と利用のバランスが取れた状態はどこなのか」、「どういうことができたときにバランスが取れるのか」、といったゴールを見据えている。本来、各取組はゴールから逆算して進めて行くものである。現在の協力金の取組やクラウドファンディングといった様々な取組は、どれも、保全と利用のバランスが取れることにつながらない(ゴールに到達するのは難しい)と思っている。そのことを認識した上で、次の展開が必要。これらの取組がうまくいくには長期のビジョンが必要。既存の大雪山ビジョンは長期のビジョンであるとは思いますが、それに伴った具体性は見えない。その具体は今後話していくことかと思う。
- ・ 民間ができる幅を増やすこととして、例えば、「財団」という考え方がある。大雪山の財団をつくり、行政と協力しながら必要な具体の取組を進めていく、お金も独自で集めていく、そういう団体が必要かと思う。さらに、大雪山は利用についての展開も期待できるが、現在利用と保全のバランスをとるアイデアの具体性はあまり見られない。利用の面を得意としているのは、やはり民間であると考えている。今後、皆さんの協力のもと「大雪山財団」を立ち上げたいと考えているので、今後地域の皆さんにも相談する機会があるかと思う。よろしくお願ひしたい。

■十勝山岳連盟 齊藤氏

- ・ 東大雪の方面で、最近、人との距離が近いヒグマが増えてきていると感じている。登山道に関しては、東大雪は人の入り込みが少ない分、道の崩壊は表大雪ほど酷くないのかなと感じているが、近年、登山者は増えてきている傾向であり、今後の状況を心配しているところである。その他の表大雪で生じている各種問題についても、今後日高山脈や東大雪でも発生しうるものであるため、危惧している。

-2) 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の開催結果について

事務局より資料 2-2 に基づき説明。

→特段の質疑なし。

-3) 各構成員からの情報提供、情報交換について

上川町及び上川総合振興局より、資料 2-3 に基づき説明。

(各説明の概要)

■上川町 鈴木氏

- ・ 町道チカリベツ線通行止めについて、当初 R 5 年～ 8 年まで丸 4 年通行止めの予定であったが、業者と協議を重ね短縮することを検討している。今年度については、通行できないことは確定しているが、業者は、来年の 8 月には開けられる可能性があるとしている。町としては、この時期もさらに前倒しできないか協議中である。詳細はまた後日共有していきたい。

■上川総合振興局 中島氏

- ・ 昨年度、大雪山裾合平におけるクラウドファンディングを実施し、多くの協力を得ることができた。夏に残置していた廃材についても、今春（4 月）にスノーモビルを活用して、無事全てを麓まで下ろすことができ、事業が終了した。今期についても、約 200 メートル区間を同様に施工したいと考えている。現状、約 62 万円のクラウドファンディングが集まっている。ぜひ、本取組の周知をお願いしたい。

3. その他

各地域における観光の動向、特に新型コロナウイルス感染症が 5 類相当になったことによる来訪者の入込み状況や変化等について、観光関係の 6 団体から紹介が行われた。その後、その他の情報共有があったほか、事務局から「国立公園指定 90 周年事業」及び「愛別岳訴訟」に関する情報共有を行った。

(各地域における観光の動向・名簿順)

■上士幌町（商工観光課・ひがし大雪自然館） 木田氏

- ・ 東大雪地域の入り込み状況であるが、R 2～3 年度はコロナの影響を受け人の動きは少なく、R 元年度比で半減となった。ひがし大雪自然館の入館者数は R 4 年度には、過去のピーク時の 8 割程度まで回復した。今年度の大型連休は昨年以上の入り込みであり、今年度全体で昨年度以上の来訪が見込まれる。外国人観光各については、特にアジア圏の観光客の入り込みが増えてきている。最近の動向としては、

動植物や登山等の問い合わせに加え、サイクリングが流行っており、当館でもレンタルサイクルを実施しているが、冬の糠平湖の湖上サイクリングが人気。また、個人・団体問わず、旧国鉄士幌線のアーチ橋の見学が人気。個人、グループ、メディアからの問い合わせもかなり増えている。

- ・ 当館は10周年を迎えており、記念に今年度事業として生物多様性データブック(目録)を作成する予定であり、保全につなげたい考えている。
- ・ いずれにしても、今年度は来訪者が多くなると想像するので、更なる情報発信や魅力発信とともに、清掃活動や維持管理等の保全活動にも力を入れていきたいと思う。

■北海道運輸局 山崎氏

- ・ 事前に配付している資料に基づいて北海道のインバウンドの動向について説明させていただく。宿泊者は順調に回復し、昨年12月はコロナ前と比較して4.8%増加となった。一方、外国人観光客に限ると、コロナ渦前と比較するとまだまだ回復途上で、昨年末からは対2019年比で横這いとなっている。全国的にはアメリカからの訪日が増えているが、北海道には全国ほどはまだ来ていない。インバウンド全体ではコロナ前の6~7割程度の回復状況。ただし、コロナの影響で運休が続いていた旭川空港と台湾・台北とを結ぶ定期便が、5月9日から再開されることや、水際対策が撤廃され今後は中国大陸からのインバウンドも見込まれるなど、徐々に回復していくと見込んでいる。

■層雲峡観光協会 中島氏

- ・ 層雲峡大手ホテルのR4年度状況を速報値としてお伝えする。層雲峡で最も大きい宿泊施設が現在閉館している状況ではあるが、全体としては7割程度の回復状況であると認識している。インバウンドとしては、昨年度48,401名が宿泊している。台湾が42.9%で最も多く、次いで韓国11.9%、香港10.0%、シンガポールやタイが続く。欧米からの訪問も増えており、特に1月~3月にかけてのバックカントリー目的や氷瀑祭り等のイベントで層雲峡に来ていただいているのかと想像する。4月は、全体で前年比90%程度であった。直近の大型連休(4/29~5/7)の数値を報告すると、R4年度の同時期について7,883名に対し今年度は8,564名と増えている。近年は、直前の予約が多いのも特徴。

■ひがしかわ観光協会 高橋氏

- ・ 町の中心部の動向で言うと、コロナの影響によって特に大きな増減はなかった。今年度のGWの状況について、道の駅では、R4年度とR4年度を比較して108%の入り込みとなった。ちなみにR3年度からR4年度を比較すると114%で、コロナ渦であっても右肩上がりであった。R元年度とR5年度を比較しても104%の増加

であった。どちらかという外国人よりも日本人客が多い。最近では車中泊される観光客が多い傾向。5月9日からの旭川空港でのアジア圏に対応する定期便の復活に伴い、今後外国人観光客が増える見込みなので、受け入れ体制を整えたい。

- ・ また、ここ2、3日で天人峡羽衣の滝に関する問い合わせが増えてきている。

■旭岳ビジターセンター 三島氏

- ・ 当館の入り込み状況について、R4年度は55,000名、R3年度は33,000名、R元年度（コロナ前）は70,000名である。徐々に回復傾向にあると言える。インバウンドについて、R4年度3月の数字であるが、アジア圏・ヨーロッパ圏それぞれ300名ずつ来訪している。また、今年度のGWは3,000名の来館者数の内、半数は外国人であり、欧米系が多かった。今後も、外国人含めより多くのお客様に来館して頂けるよう取り組んでいきたいと思っている。

■かみふらの十勝岳観光協会 青野氏

- ・ 上富良野の十勝岳周辺の観光状況をお伝えする。宿泊施設は全部で4者あるが、このうち営業しているのは2者。凌雲閣だけでいくと、施設への入り込みをR元年度と比較すると、（入浴と宿泊あわせて）約150%。白銀荘もR元年度より良いと聞いている。この情報を踏まえると、利用者数はコロナ渦前よりも増えている状況といえる。インバウンドについても、お客様が増えている。昨年12月頃からは、主に、バックカントリーを目的とした欧米圏の観光客が多い傾向だが、R4年度はこれまで少なかったアジア圏からの観光客も増えている。アジア圏の方はバックカントリースキーというよりはスノーシューで気軽に体験できる雪遊びを楽しんでいる。
- ・ 先ほど英語版のグレードマップを作ると聞いたが、冬にスノーシューでヌッカクシ火口まで行かれる外国の方が増えてきている。昨年の大雨でヌッカクシ火口の入口にある登山道の段差が崩れて大きくなっている。山開きが6月中旬なので、それまでに関係者ととも登山道整備できたらと思う。

■上川中部森林管理署 前田氏

- ・ 今年度もグリーンサポートスタッフ4名を配置する予定。黒岳・緑岳をメインに、入山者へのマナー啓発や簡易な登山道の簡易修繕等を実施予定である。
- ・ 沼ノ原登山口に至る層雲峡本流林道の災害復旧工事を予定している。今後の工事や規制の詳細が決まり次第、各種媒体にてお知らせしたい。

（事務局からの情報提供）

- ・ 「国立公園指定90周年事業」について、大雪山国立公園は、来年2024年の12月を持って90周年を迎える。今後、大連協として何が出来るか早い段階で検討して

いきたい。これまでの例として80周年時は、糠平温泉を中心として、記念式典や講演会ウォーキングツアーを実施し、60周年時には、大雪山のシンボルマークを制定し、実行委員会を設置してフォーラムやシンポジウム等を開催した。100周年に向けて、保全と利用を推進するきっかけになるようなものとした。協議会の皆さまからもご提案いただきながら、一緒になって検討していきたい。

- ・ 「愛別岳訴訟」について情報共有する。2019年愛別岳登山道で滑落事故が起きた。現在そのご遺族からの国と道を相手とする訴訟に対応している。訴訟の内容としては、登山道ではない道に関する案内や、当該道に関する危険性の周知、また、滑落防止対策が行われていないことに対し訴える内容となっている。進捗についてはまた適宜共有させていただきたい。

4. 閉会

■北海道地方環境事務所 番匠所長

- ・ 大雪山国立公園の管理運営に関し、日頃からのご理解とご協力いただき感謝する。本会議にて今年度の事業計画案が無事承認されたので、大雪山国立公園ビジョンの実現に向けて、引き続き事務局としても尽力していきたい。
- ・ 私自身、本協議会には8年前に出席したことがあり、また戻って来られたことを嬉しく思う。当時は、北海道事業であった白雲岳避難小屋を環境省で引き取る段取りをしたタイミングであった。その頃から協力金の話題は出ていたところであり、環境省が直接建て替える意義の一つにもなっていた。まだまだ足りないという話もあるが、現在良い形で進められていること嬉しく思うし、さらに努力したいと思う。
- ・ 南沼周辺のトイレ問題についても、当時からあったものである。完全には解決していないが、当時から比べると大分環境は改善されたものと考えており、皆さんの協力・尽力に大変感謝する。
- ・ 大雪山国立公園の管理運営は、一步一步前に進んでいるのかなと思う。今後も、引き続き事務局としての役割をしっかりと果たして行くとともに、引き続き、皆様のご協力とご支援をお願いしたい。

以 上